

# 江戸・明治の 住宅リサイクル

## —古家の移築と古材利用—

現代の住宅建設は、新材による新築が主流であり、ごく短期間でスクラップ・アンド・ビルドを繰り返す。しかし、長く「木の住まい」を作り続けて来た日本では、かつては木材をより長く使い続けるためのシステムが存在した。そのひとつが古家(ふるや)・古材の再利用である。木造は石造など組積造に比べて解体・再建しやすい利点を活かし、既存の住宅の移築が実は頻繁に行われてきた。古家の利用は決して特別なものではなく、ごく一般的な建築用材のひとつとして、再利用の技術や流通の仕組みが確立していたのである。

平山育男氏は、全国の民家緊急調査の対象物件 2400 棟のうち、移築民家が 160 棟、約 7パーセントを占めること、さらに東京・神奈川での悉皆的

な事例収集では移築を経た民家が 1 割を超えることを指摘した。移築された民家の平均経年は 70 年程度で、移築によつて民家はさらに長い年月を生き続けたことになる。

一方、中村琢巳氏は、飛騨高山の普請願にみる新築・増改築・修繕に古材利用が含まれること、特に土蔵は半数以上で古材を利用したことを明らかにした。高山では、この古材利用を公共建築でも組織的に行い、橋の架け替えや番所の建替えに前身建物の古材の一部を用い、不要な古材を入札で払い下げて民間に流通した。

「木の住まい」に生き続けた日本ならではの、江戸・明治の木材再利用のシステムを、改めて見直してみたい。

2010 年 11 月 29 日 (月)

18:30~20:30 (受付 18:00)

北沢タウンホール (下北沢) (※地図裏面)

### || パネリスト

- ◎ 平山 育男 (長岡造形大学 教授)
- ◎ 中村 琢巳 (立命館大学 研究員)

### || コメンテーター

- ◎ 小沢 朝江 (東海大学 教授)

申込み〆切 11月21日(日)



このシンポジウムはCPD認定プログラム(2単位)です

参加費 500 円(当日徴収) 定員 60 名(参加票送信)  
(世田谷区民無料)

お申込み・お問合せ ホームページ・FAX・往復はがきからお申込みください

主催 (財)住宅総合研究財団

ホームページ

<http://www.jusoken.or.jp/edotokyo.htm>

FAX

03-3484-5794

※裏面のFAX申込み用紙をご利用ください

※往復はがきの場合も裏面FAX用紙の内容を明記の上お申し込みください

送付・問い合わせ先 江戸東京住まい方フォーラム事務局  
〒156-0055 東京都世田谷区船橋 4-29-8

TEL 03-3484-5381

住総研

# 「北沢タウンホール」までのアクセス

所在地：東京都世田谷区北沢 2-8-18

- ・小田急線「新宿」駅から急行7分 各停10分
- ・井の頭線「渋谷」駅から急行3分 各停5分

**「下北沢駅」下車 南口 徒歩4分**



11月29日(月)フォーラムに参加します  
**FAX 参加申込書 03-3484-5794**

氏名	／所属
住所	〒
電話	／FAX

(ふりがな)  
(自宅・所属) ○をつけてください

※お申込み時の個人情報は、本フォーラムのご案内以外には利用いたしません。

(財) 住宅総合研究財団